

# 牛久：学校周辺に見る自然

第16号 ひたち野うしく小学校

2018年5月26日発行

＜ 晩春のみずべ公園 ～④その他の植物（草本） ＞

ひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回は草本。



開花 目前のノアザミ(左)と、次々と咲き出したドクダミ(右)。

ノアザミのつぼみが大きく膨らみ、もう咲き出しそうでした。ドクダミは、5・6組の5/8には咲き始めていて、2・4組の5/17には写真のようにだいぶ咲き進んでいました。



開花 中のコウゾリナ(左上)とシラン(中上)、ブタナ(右上)、ヘラオオバコ(左下)、ニワゼキショウ(中下)、ケキツネノボタン(右下)。

次々と咲き続け、実が熟している草も多く見られます。湿った場所、乾いた場所、通路沿いなど、どんなところに見られたかも記録しておくといいですね。もともとあったものだけでなく、人が植えたもの、タネが飛んできて生えたものなどいろいろです。



つづ ぶつえんほう むらさきいろ  
花の集まりを包む仏炎苞が 紫 色のマムシグサ(左)と、緑色のマムシグサ(右)。

4年生の観察の時には <sup>むらさきいろ</sup> 紫 色のだけでしたが、今回は緑色の<sup>ぶつえんほう</sup> 仏炎苞をもったマムシグサの花も見つけました。<sup>ぶつえんほう</sup> 仏炎苞は花の集まりを包む<sup>つづ</sup> つつのような部分で、上は<sup>やね</sup> 屋根のようになって中の花を雨から守っています。おもしろい形ですが、はじめはおすの花をつけていて、栄養がたまるとめすの花をつけるようになるそうです。またおすにもどることもあるそうで、栄養状態でおすめすが決まるようです。



かき  
花期の長いイヌガラシ(左)と<sup>わたげ</sup> 綿毛が目だつチガヤ(中)、赤く<sup>じゆく</sup> 熟 すヘビイチゴ(右)。

小さな黄色の花にアブラナに似た実がついていました。同じアブラナ科のイヌガラシです。秋のはじめまで花が<sup>さ</sup> 咲きます。

チガヤは、大部分が<sup>わたげ</sup> 綿毛の伸びた白い<sup>ほ</sup> 穂になっていました。

ヘビイチゴはもう花はなく、実が赤く<sup>じゆく</sup> 熟 していました



<sup>きせい</sup> ムラサキツメクサに寄生するヤセウツボ(左)。よく似たクスダツメクサ(中上)とコメツブツメクサ(右)。ミヤコグサ(中下)。

最後にマメ科のなかま。見くらべると花の大きさなどいろいろ<sup>ちが</sup> 違うのですが、<sup>なら</sup> 並んでないと<sup>まちが</sup> 間違えることも多い

クスダツメクサとコメツブツメクサ。よく見ると、どちらもマメ科の花であることが分かります。

ミヤコグサは花も大きいので、すぐマメ科と分かりますね。ムラサキツメクサなどに寄生するヤセウツボ(第10号)はほとんど<sup>ちやいろ</sup> 茶色くなり、もう花は終わりのようです。 【理科支援員：宮内】